

日時：平成26年10月24日（金）第5校時

場所：1年教室（1階）

授業者：松山 美由紀

児童数：男13名，女9名

1 単元名・教材名

単元名：こえに だして よもう

教材名：くじらぐも

2 指導の立場

(1) 子どもの実態

「はなのみち」では、挿し絵から場面の様子をとりえ、登場人物の会話を考え吹き出しに書くことで想像を広げながら読んできた。「おむすびころりん」では、挿し絵や繰り返しの言葉に着目し、動作化をすることを通して場面の様子を想像して読み、リズムを楽しみながら音読してきた。「おおきなかぶ」では、繰り返し高まっていくお話の展開や言葉のリズムを楽しみ、音読や動作化をすることで、より深く読み取れるようにしてきた。

話すことがあまり得意ではない子どもも、話型を示すことで抵抗を少なくしたり、全体で交流する前にペア交流を位置付けたりして進んで話すことができるようにしてきた。また、全体で交流し、動作化を取り入れながらより想像を膨らませ、本文の言葉に立ち止まり読み取る力を育ててきた。その結果、自分の考えをもち、話そうとする子が増えてきつつある。

(2) 本時の指導について

【自分の考えをもつための指導方法の工夫】

どのような様子か・どんな気持ちかを想像できるように、前時までの学習内容を提示し、想起しやすいようにする。また、タブレットPCで撮影した児童の音読の様子を見せることで、本時の音読に生かせるようにする。

【自分の考えを伝え合うための指導方法・学習形態の工夫】

本時は文章の内容と自分の経験とを結び付けて、雲のくじらに乗っているいろいろなところを見た子どもたちの様子を想像して音読に表す。本文のどこを根拠にして考えたのか話すことで、聞き手が自分の考えと比べながら聞き、同じところや違うところを見付けることができるようにする。

【自分の考えを深めていくための指導方法の工夫】

どこまでも続く広い空の様子を豊かに想像するために、「くじらぐもと子どもたちは、どこまで行ったのだろうね。」と聞き、「どこまでもどこまでも」の言葉に着目させる。

3 本時の目標

挿絵や繰り返しの言葉に着目し、くじらぐもに乗り海や村や町を見ている子どもたちがどんなことを話しているか想像することを通して、子どもたちが空の旅を楽しんでいる様子を想像しながら音読することができる。

4 本時の展開

深めの発問

評価規準

※ICT活用について

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○これまでの学習の流れを振り返り、本時の学習課題をつかむことができる。	1 前時の学習を振り返る。 ・大型テレビで前時のまとめの音読を聞き、子どもたちが、心をつなげてジャンプをし、手をつないだままくものくじらに乗った様子を思い出す。 2 本時の課題をつかむ。 子どもたちとくじらぐもが空を旅する様子を音読しよう。	・前時の学習内容を掲示し想起しやすくする。 ※タブレットPCで撮影した前時の音読の様子を見せる。 ※プロジェクターを使って、天井に本時の場面のくじらぐもの挿絵を映す。
ふかめる	○くじらぐもや場面の様子を挿絵や大事な言葉からつかむことができる。 ○くじらぐもに乗ったつもりで、子どもたちがどんなことを話しているか考えながら読むことができる。 ○どこまでも続く広い空の様子を「どこまでもどこまでも」と書いてあることから、豊かに想像する。	3 子どもたちをのせて、元気いっぱい進んでいくくじらぐもの様子を挿絵や本文の言葉で確かめる。 ・くじらぐもが言った言葉や様子をワークシートに視写する。 ・視写できたら、ワークシートに正しく写せたかどうか確かめるために何度も音読する。 「さあ、およぐぞ。」と言っています。 「あおいあおい空」の中を、元気いっぱい進んで行きました。 「うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ」行きました。 「空はどこまでもどこまでも」続いています。 4 くじらぐもに乗っている子どもたちはどんな話しをしたか、想像する。 ・「うみのほう」へ行ったら〇〇が見える。〇〇は小さく見えるよ。 ・「むらのほう」へ行ったら〇〇が見える。〇〇に行ったことがあるよ。 ・「まちのほう」へ行ったら〇〇が見える。〇〇が見たいなあ。 5 子どもたちが空の旅を楽しんでいる様子を、吹き出しに書く。 ・くじらぐもさん、もっと遠くまで行こう。 ・空は広いな。どこまで続いているのかな。 ・みんなで空の旅をして楽しいな。うれしいな。 ・歌いたくなかったよ。くじらぐもさんも歌おう。	・くじらぐもの言葉や、子どもたちがいろいろなところに行った場面の様子を表す言葉に気をつけて、音読するように助言する。 ※タブレットPCで音読の様子を撮影し、姿勢や口形の手本になりそうな児童を見せる。 ・挿絵を拡大して黒板に再現し、イメージを膨らませる。 ・文字の大きさや位置を意図的に変えることで、視覚的に捉えることができるようにする。 ※大型テレビに挿絵を映し出し、目に見えるものや聞こえてきた音などを想像し、具体的に話せるようにする。 ・子どもたちになりきって吹き出しを書かせる。 「どこまでもどこまでも」はどんなふうに関わり合いのいいか聞くことで、果てしなく広がる空の様子を確認し、音読に生かせるようにする。
まとめる	○子どもたちの楽しそうにしている様子を思い浮かべながら音読することができる。 ○本時の振り返りをする。	6 本時のまとめをする。 ・タブレットPCで撮った音読の様子を見て、姿勢や口形、声の大きさや速さなどを思い出す。 ・空の旅を楽しんでいる子どもたちの様子を想像してまとめの音読をする。 どこまでもどこまでも続く空で、海や村や町を見て子どもたちはとてもたのしいんだね。 7 自己評価をする。	・ペアになってお互いの音読を聞き合う。音読するときは、始めにどんなふうに関わり合いのいいか話してから音読し、聞き手は音読を聞いた感想を話す。 ・ペアでの音読を聞いて、最後に一人でまとめの音読をする児童を決める。 ※タブレットPCで、まとめの音読を撮影する。

5 国語科単元指導計画

(1) 単元の見どころ

- ・語のまとまりや文として、言葉の響きに気をつけて読むことができる。
 < C— (1) —ア >
- ・場面ごとに登場人物の様子を、想像を広げながら読むことができる。
 < C— (1) —ウ >
- ・書いたものを友達と読み合って感想を伝えている。
 < B— (1) —オ >

(2) 単元を貫く課題

- ・くじらぐもや子どもたちの行動や会話に着目し、場面の様子を想像しながら音読しよう。

(3) 単元指導計画 : 全11時間

時数	目標	主な学習活動	評価規準
一次 1	挿絵を見たり、「くじらぐも」を音読したりすることを通して、誰が何をした場面かに気づき、あらすじをつかむことができる。	・ 去年の音読発表会の様子を見せる。 ・ 挿絵と対応させて音読し、大体のあらすじを捉え、挿絵ごとに簡単な題名を付ける。 ・ 学習の終わりに、音読発表会をすることを知らせる。 (パソコン・プロジェクター)	挿絵を手がかりにして、いつ誰がどんなことをした場面だったかを話している。(話)
2	全文を読み、感想を交流することを通して、読みのめあてが分かり、学習の計画を立てることができる。	・ 全文を音読し、感想を交流する。 ・ 場面わけをして場面ごとのめあてをつくり、学習計画を立てる。	感想を話し、読みのめあてを考えている。(関)
3	新出漢字・片仮名の読み方と筆順、言葉の使い方が分かる。	・ 新出漢字や片仮名の読み方と筆順、言葉の使い方を学習する。	新出漢字や片仮名の読み方と筆順を正しく書いている。(計)
二次 4	子どもたちとくじらぐもの行動や会話に着目することを通して、くじらぐもが子どもたちのまねをしていることが分かり、くじらぐもと仲良くなっていく様子を想像して音読することができる。	・ 「が」や「も」に着目して、子どもたちとくじらぐもの動作を、役割を決めて動作化しながら読み取る。 ・ まねをするくじらぐもに子どもたちが呼びかける言葉を吹き出しに書いて交流する。 ・ 「あのくじらは、きっとがっこうがすきなんだね。」の音読を工夫する。 (タブレットPC・大型テレビ)	子どもたちとくじらぐもの出会いと、くじらぐもが子どもたちのまねをしている様子を、想像して音読している。(読)
5	「くじらもささいました。」「よかったです。くものくじらにとびのろう。」に着目し、動作化や役割読みをすることを通して、子どもたちがくじらぐもと呼び合ううちに楽しくなったことに気づき、子どもたちがくじらぐもとのやりとりを楽しんでいる様子を想像し音読することができる。	・ くじらぐもが誘ったことや子どもたちがくじらぐもとび乗ろうと決めたことを、本文の言葉で確かめる。 ・ 子どもたちとくじらぐもに分かれて、音読しながら様子を想像し交流する。 ・ くじらぐもに誘われた子どもたちが、どんなことを話しているかを想像して吹き出しに書く。 ・ 「よかったです。くものくじらにとびのろう。」の音読を工夫する。 (タブレットPC・大型テレビ)	子どもたちとくじらぐもが呼び合う様子や、子どもたちがくじらぐもとのやりとりを楽しんでいる様子を想像して音読している。(読)

6	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらぐもの様子を動作化することを通して、子どもたちの気持ちが高揚していくことに気づき、くじらぐもに乗った時の様子を想像し音読することができる。	・ 「やっと三十センチ」「こんどは、五十センチ」を動作化し、会話の部分にこだわって、子どもたちとくじらぐもの様子を話し合う。 ・ 子どもたちがくじらぐもに乗ったときの言葉を吹き出しに書いて交流する。 ・ 「天までとどけ、一、二、三。」の音読を工夫する。 (タブレットPC・大型テレビ)	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの行動や会話から、くじらぐもに乗ることができたときの子どもたちの様子を想像して音読している。(読)
7 本時	挿絵や繰り返しの言葉に着目し、くじらぐもに乗り海や村や町を見ている子どもたちがどんなことを話しているか想像することを通して、子どもたちが空の旅を楽しんでいる様子を想像しながら音読することができる。	・ 子どもたちをのせて、元気いっぱい進んでいくくじらぐもの様子を挿絵や本文の言葉で確かめる。 ・ くじらぐもに乗っている子どもたちはどんな話をしたか、想像する。 ・ 「どこまでもどこまでも」と書いてあることから、どこまでも続く広い空の様子を想像する。 ・ 楽しさやうれしさが表れるように、まとめの音読をする。 (タブレットPC・大型テレビ)	子どもたちが空の旅を楽しんでいる様子を想像しながら音読している。(読)
8	くじらぐもと別れるときの子供たちの行動や会話に着目し、子どもたちがどんなことを話しているか想像することを通して、空の旅が楽しかったことに気づき、別れの様子を想像し音読することができる。	・ 「せんせいがうでどけいを見て、おどろく」という言葉から、先生が何に驚いたか、その時の様子を考える。 ・ くじらぐもと別れるときの子供たちの言葉を吹き出しに書いて交流する。 ・ 会話文の音読を工夫する。 (タブレットPC・大型テレビ)	くじらぐもと別れる時の子供たちの様子を想像して音読している。(読)
三次 9	くじらぐもに手紙を書き、書いた手紙を読み合う活動を通して、書いたものを読み合う楽しさに気づき、友達に手紙の感想を伝えることができる。	・ くじらぐもへのお願いやお礼、読んで思ったことや聞きたいことを書く。 ・ 友達の書いた手紙を読んで、思ったことを付箋に書いて貼る。 ・ 友達が書いた手紙で、いいと思ったところを紹介する。	書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝えている。(書)
10	音読発表会に向けて、これまでの学習を生かし、登場人物の行動や会話、場面の様子が分かるように工夫して音読練習をすることができる。	・ これまでの学習の足跡(掲示物)から話のあらすじを確認する。 ・ 好きな場面や友達と声を合わせて読みたいところを交流する。 ・ 選んだ場面をどんなふうにも読んでいいか工夫して音読の練習をする。 (タブレットPC・大型テレビ)	自分の読みたい場面を選び、登場人物や場面の様子を想像し、工夫して音読している。(読)
11	これまでの学習を生かして楽しく音読発表会に参加し、友達のよさを見付け交流することができる。	・ 音読発表会の練習をする。 ・ グループごとに音読発表をする。 ・ 音読発表を聞いて、友達のいいところを交流する。 (タブレットPC・大型テレビ)	友達の音読の工夫を見付け、感想を伝えている。(読)